

第1学年 算数科学習指導案

児童 男子11名 女子5名 計16名
指導者 青山祥子

- 1 単元名 12 たしざん
- 2 単元について

【単元の目標】

- 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算の仕方を理解し、確実にできるようにするとともに、それをを用いることができるようにする。

【児童の実態】

- 算数に対して興味をもち、意欲的に取り組む児童が多い。
- 児童は、第3単元「いくつといくつ」において10は9と1、8と2などのように10を分解的にとらえたり、9と1で10、8と2で10など、10を合成的にとらえる学習をしている。また、第4単元「あわせていくつ ふえるといくつ」では、繰り上がりのない1位数+1位数の加法を学習してきている。さらに、第6単元「10よりおおきかず」では、例えば「10と3で13」などのように「十といくつ」を合成的にとらえることを通して数構成の理解を深め、数に対する感覚を豊かにする学習をしてきている。
- 自分の考えを話す活動については、1学期からペア学習を取り入れながら学習を進めてきたが、計算の順序を分かりやすく説明できる児童は数名である。

〈レディネステストの結果〉

(9月 16名実施)

	問題のねらい	正答率
①	繰り上がりのない加法計算(和が10になる場合を含む)、10+1位数の加法計算、3口の加法計算ができる。	93%
②	20までの数の合成・分解ができる。	50%
③	3口の加法の文章問題ができる。	63%
④	(未習内容)繰り上がりのある加法計算の文章問題ができる。	87%

〈単元を通しての指導〉

〈仮説1〉

課題意識をもたせる場面の工夫

- ・問題の内容や提示の仕方の工夫
- ・学習課題の設定の仕方の工夫
- **場面を正しく理解させ、解決の見通しをもたせる。そのために、児童が興味・関心をもつような具体物を用いた問題の提示をして、問題場面を正確に理解させる。**
- **新たな課題をつかませる。そのために、既習内容と比較させたり、前時との違いに気付かせたりする。**

〈仮説2〉

主体的に自分の考えたことを表現させる算数的活動の工夫

- ・既習事項を活用し、様々な方法で問題を解決するための自力解決の工夫
- ・自分の考えを分かりやすく説明するための工夫
- **自力解決するための方法の見通しをもたせ、ブロック操作を基に計算方法と結び付けて考えさせる。そのために、「10のまとまり」を意識させ、ブロックを用いた活動を多く取り入れ、加数分解を理解させる。**
- **自分の考えをもち、友達とペア学習する場を設け、学習内容の理解を確かなものにする。**

3 指導計画（12時間）

第1次	9 + 4のけいさん	5時間
	・ 9 + 4の計算の仕方（加数分解）を考えること	(1)
	・ 被加数が9の場合の計算の仕方（加数分解）	(1)
	・ 被加数が8の場合の計算の仕方（加数分解）	(1) 本時
	・ 被加数が, 8, 9の場合の計算の練習	(1)
	・ 被加数が7の場合の計算の仕方（加数分解）と練習	(1)
第2次	3 + 9の計算	2時間
第3次	かあどれんしゅう	5時間

4 本時の指導

(1) ねらい

・ 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算で20までの数の構成や10の補数に着目して、繰り上がりのある加法の仕方を考えている。

(2) 算数的活動について

・ ブロックを操作したりさくらんぼ計算に表したりしながら計算の仕方を考え、説明する活動。

手立て☆1 ブロック操作やさくらんぼ計算で考えるときには、「10のまとまり」を意識させながら行わせる。

手立て☆2 計算の仕方を確実に理解するために、自分の考えをブロックを動かしながら友達に説明させる。

(3) 本時の展開

段階	学習活動と予想される児童の反応	学習への支援と評価 支援◇ 評価◆ 手立て☆
つかむ 5分	1 前時の学習を想起する。 9 + 4のけいさんのしかたを想起させる。 ・ 9に1をたして、10のまとまりをつくってから計算した。 2 課題を把握する。 8 + 3のけいさんのしかたをか んがえよう。	◇前時の学習から、10のまとまりをつくれ ばよいこととおさえる。 ◇前時の問題と違うところを考えさせる。
見通す 2分	3 解決の見通しをもつ。 8に何をたせば10になるのか考える。	◇既習事項が本時の学習でも生かせそうな ことに気付かせる。
考える 10分	4 自力解決をする。 ① 数えたす。8, 9, 10, 11 ② 10の補数を意識して加数を分解し てたす。 ③ さくらんぼ計算をする。	☆ブロックケースを使い、8と3のブロック の色を変えてから考えさせる。 ◇10のまとまりをつくることに着目させ る。

た し か め る 13 分	5 自力解決の結果を発表し合う。 (1) 隣同士で自分の考えを発表し合う。 (2) $8 + 3$ の計算の仕方を確認する。	<p>★自分の考えを分かりやすく伝えるために、ブロックを動かしながら説明させる。</p> ◇被加数が8の場合は、2をたして、10のまとまりをつくることを確認する。 ◆ $8 + 3$ の計算の仕方を操作や言葉などを用いて説明することができたか。 ◇10のまとまりをつくると、すばやく答えが出せることを確認する。
ま と め る 15 分	6 $8 + 3$ の計算の仕方をまとめる。 (ア) 8はあと2で10 (イ) 5を2と3に分ける (ウ) 8に2をたして10 (エ) 10と3で13 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 8に2をたして、10のまとまりをつくる。 </div> 7 適用問題をする。 $8 + 5$ 8 本時を振り返り、次時の見通しをもつ。	◇ブロック操作を基に、計算の手順を声に出して言わせる。

(4) 評価

評価規準 (観点) [方法]	判 定 基 準		
	十分満足 (例)	おおむね満足	手だて
$8 + 3$ などの計算の仕方を考え、操作や言葉などを用いて説明することができる。 (数学的な考え方) [発表・観察]	20までの数の構成や10の補数に着目して考えればよいことを、筋道を立てて説明している。	20までの数の構成や10の補数に着目して、繰り上がりのある加法の仕方を考えている。	10のまとまりを意識させながらブロック操作をさせる。